千葉大学（所在地：千葉県千葉市）

事業名　大学と地域をつなぐインクルーシブな生涯学習モデル構築事業

事業の趣旨・目的

・障害者の生涯学習を推進するため、大学・社会教育施設・NPO等が連携し、**学校卒業後の「移行期」における学びの機会**を創出する。
・さらに、実践を通じて得られた知見や成果を整理し、**他地域へと共有・普及させる**ことで、**県内の市町村等における「移行期の学び」の実践開発**へとつなげる。

事業実施体制・連携先

千葉県教育庁、公民館関係者、学校関係者、障害者福祉施設の職員を構成員とする**連携協議会を設置**する。

主な対象

すべて

活動分野

学習/情報保障/普及啓発

事業内容

・千葉大学教育学部を、障害のある人（主に18～30歳）や発達障害・不登校経験等のある18歳以上の若者、大学生、地域住民等が**出会い、ともに学ぶ「インクルーシブな学び」の拠点とする**。令和8年度は、以下の2つのプログラムを各3回、計6回、千葉大学西千葉キャンパスを主会場として実施する。

① 大学での学び体験プログラム
　学食や図書館の利用、大学生との交流等を通してキャンパスライフを体験するとともに、参加者自身の関心に基づく調べ学習や地域課題の発見、学習成果のポートフォリオ化等に取り組む。

② 共創ワークショップ「未来のインクルーシブな大学を考えよう」
　障害のある参加者と大学生が、それぞれの経験や意見を持ち寄り、誰もが学びやすい「未来のインクルーシブな大学」のあり方をともに考える。

・実施にあたっては、本人のニーズを踏まえてプログラムを設計する。また、**参加者自身が「やりたいこと」を提案・実現できる機会**を設け、学びの主体として参加できるようにする。
・事業実施後は、**アンケートを行い、学習ニーズや満足度を把握**するとともに、次回のプログラム改善に反映する。
・さらに、自治体・社会教育関係者、福祉関係者、地域住民等にも参加を呼びかけ、**大学と地域が連携した学習支援ネットワークを形成**する。年度末には成果報告会を開催し、実践の成果を広く共有し、他地域への普及・展開を目指す。



↑**2026年8月に実施したワークショップの様子**

事業終了後の目指す方向性

・事業で蓄積した実践知や運営手法、参加者支援、学生ボランティア育成等を整理し、**他地域でも活用できるプログラムとして標準化**し、**普及と横展開**を進める。
・大学・行政・地域の連携を基盤に、**障害のある人が地域で継続的に学べるインクルーシブな生涯学習の仕組みの構築と定着**を目指す。

その他

千葉大学教育学部で8月に実施した「未来の学校＆モノづくりワークショップ」→
事後アンケートでは、96%が「とても楽しかった／楽しかった」と回答し、92%が「今後も参加したい」と回答。継続的な学びの場への高いニーズが示された。

